

熊本高専
熊本キャンパス
図書館だより
第25号



図書館からのお知らせ
P. 2, 3



教員・学生推薦本
県青少年読書感想文
最優秀賞作品掲載
P. 4-7



図書館利用者数データ
編集後記
P. 8

くぬぎの森



(下記授賞式にて。前列左から木村さん、工さん、片岡さん)

H25年度 熊本県青少年読書感想文コンクール結果

<最優秀賞>

「ジョン万次郎を読んで」

情報通信エレクトロニクス工学科3年 工 貴大

<優秀賞>

「プライドという弱さ（「山月記」を読んで）」

人間情報システム工学科3年 片岡 千知

「自分を生かす生き方（「まりしてん閻千代姫」を読んで）」

2年3組 木村 遙

図書館への思い

図書館長 伊藤利明

歴史を研究していることもあって、学生時代から図書館に一日中籠もっていることが多かった。また、大学の図書館でアルバイトをしていたので、サービスを提供する側にもいた。地下書庫の埃っぽい薄明かりのなかは、異次元の世界のようで、まさに sanctuary と呼ぶべき神秘的な空間だった。天井にまで届く書棚に居並ぶ専門書からは、「知」の圧倒的迫力を感じた。

専門書は限定部数しか発行されないし、ましてそれが古書となると二度とお目にかかれなくなるので、貧乏学生ではあったが生活費を削ってでも手に入れようとした。恥ずかしながら文芸書などはまったく読んだことがなく、一方、漫画は友人から借りてよく読んでいた。最近、エンターテインメント性が強いライトノベルがアニメや映画になるので、学生に勧められて読むようになった。純文学もラノベも漫画も、人生を豊かにしてくれるものなので、既成の枠にとらわれず所蔵していきたいと考えている。

私が理想とする図書館は、癒しの空間である。暇なときに足を運んでみようと思う空間をつくること、そこに行けば好奇心をくすぐる何かがある空間をつくるのが私の仕事だと思う。本キャンパスの図書館は、大学とは違い、こぢんまりとした図書館なので、学生と教職員による手作り感溢れる図書館にしていきたい。購入してほしい書籍はもとより、図書館を居心地良くするアイデアを「希望の声」に書いて、投函してもらいたい。展示ギャラリーを新設したので、今後とも学生や教職員の写真展やイラスト展などを開催していく予定である。今年度は、図書委員の学生諸君にブックハンティングに参加してもらったり、本誌に「お勧め図書」を寄稿してもらった。『図書館戦争』の「図書隊」といえばオーバーだが、図書委員には学生の自由な発想を生み出す場である図書館を守る気概を持って、活性化のために頑張ってもらいたい。

歴代の図書館長や関係職員の尽力で、熊本キャンパスの図書館はハード面では立派になった。しかし、ソフト面では課題は山積している。データベース化や書籍の整理が不十分であることなど、日常的な図書館業務に関わる点から始めなくてはならない。本年度、外部業者に委託して蔵書点検を初めて行った。教育・研究支援のため電子ジャーナルにアクセスできる環境を整えたり、逆に研究成果を発信するため学術機関リポジトリに参加しなければならない。見た目は大事である。「学校の顔」である図書館が、館長に似ずハンサムになればと願うばかりである。

H25年度の

新しい取り組み



12月初旬に三年坂TSUTAYAにてブックハンティングを行いました。



展示ギャラリー。12/1～TE3年樋口佳奈さんによる写真展が開かれました。



1/6～イラスト研究部による作品展が開かれました。



「希望の声」皆様の率直なご意見をお待ちしております。

新しい図書館へ

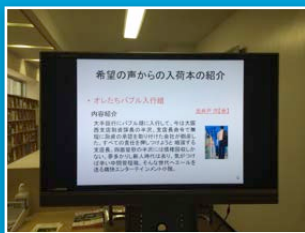
図書係長 高木真弓

今、図書館に求められているものは何だろう？癒しの空間？情報発信の拠点？学びの空間？

私が幼い頃の図書館と云ったら、お堅い、敷居の高い空間でした。だからなのでしょう...私は図書館に通った記憶がありません。本は好きで書店には行きますが、図書館には行ったことがありません。その私が図書係長として本校熊本キャンパスに赴任してしまいました(笑)。きっと私の上司は、私のようなものが図書係長になれば、実体験から図書館に足を向かわせる対策を考えるのではないかと考えたのではないのでしょうか。それにまんまと乗せられて(?)今年度から新しい試みを始めてみました。



入りやすくするため入口の両サイドにブラック・ボードを置き、カフェ風に。開館時間も明瞭になりました。



入口の中にディスプレイを配置。開館日、開館時間に加えて、新刊紹介などの情報をお知らせします。



観葉植物で安らぎの空間に。季節感も大事にしたいですね。



図書館の一番奥のDEN(穴蔵、巢、書齋の意)と呼ばれるスペース。ディスプレイ・ボードを設置し、ギャラリーとして使用し、明るく動きのあるスペースを目指しています。



探している本がすぐに見つかる図書館へ。書棚上の番号は、OPAC検索で表示される「(熊本)閲覧室○○○○」という数字の下4桁を表しています。配架先も一目瞭然!



開かれた図書館へ。学外一般利用者のための入館カードを作成しました。管理状況が向上し、また、裏面のバーコードを取り付けたことにより、圖書の貸出・返却がスムーズに。



図書館カウンター斜め前に新刊・話題書籍コーナー。新刊から数冊をピックアップして展示しています。



今年度4月から12月まで、こういった新しい取り組みを始めています。図書館業務は圖書の貸出だけでなく、教育・研究の支援や研究成果の外部発信まで幅広いものです。足を運びやすい気さくで人がいつも集う図書館、そして図書館に来れば情報が見つかる、と言われるような情報発信地としての図書館を目指しています。

ここには「希望の声」というすばらしいシステムがあります。購入希望の図書をお聞かせいただくだけでなく、図書館スペースの利用方法など図書館をみんなが心地よく使っていくための斬新なご意見をお待ちしております。

教員推薦本紹介

ル・クレジオ『大洪水』を読んで

人間情報システム工学科 特任教授 神田 一伸

「初めに雲があった」第一章のプロローグはこの言葉で始まる。聖書の冒頭のような書き出しはこれから展開する世界が、当然のことであるが雨を予感させる。しかしこの雨こそ、それがやがては川となり海に降り注いでやがては「大洪水」となる自然界の輪廻転生を具現化したものである。物語は主人公フランソワ・ベッソンが部屋の中でアンナから告白され、あるカフェでフリッパーに興じ、交通事故に会い、雨に打たれて杭の周りをぐるぐる回る一匹のチンを見つめ、別の女と出会い、一緒にひと時を過ごし、逃げるように別れて、乞食をして、見知らぬ男を殺し、暗いトンネルを抜けて、子供のように旅に出るまでを長編小説として綴っている。ベッソンの生活と雨をモチーフとして描きながら、その描写も自然現象と社会生活とが混然一体となって独特の世界観を醸し出している。作者ル・クレジオは2008年にノーベル文学賞を受賞した今では著名な作家であるが、私が興味を持った1970年代はデビューした1963年の「調書」からそれほど時がたっていないかった。当初それまで読んできた小説とは全く違って圧倒的に言葉のシャワーが降り注いでくる感じの斬新さをその1ページ目から見せつけられ、すぐにその感覚・感性の鋭さが心地よい刺激を自分に与えたことを覚えている。フランスのヌーヴォー・ロマンとは少し距離を置いた「新たな旅立ち、詩的な冒険、官能的悦楽の書き手となって、支配的な文明を超越した人間性とその裏側を探究した」（ノーベル賞授賞理由）ル・クレジオの作品を手にとってみませんか？



『プログラミングテクニック—UNIXコマンドのソースコードにみる実践プログラミング手法』

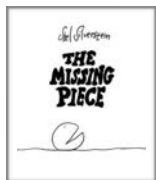
情報通信エレクトロニクス工学科 准教授 新谷 洋人



専門的な内容で、とのことでしたので、多治見寿和さんの『プログラミングテクニック』をおすすめします。本キャンパスでは全学科でC言語を学んでいますが、C言語で記述されている「Unixコマンド」についてはツールとして認識しているだけで、実際にどのようなプログラムで動作しているのか考えたことの無い人がほとんどなのではないでしょうか。最近、Android や MacOSX などの Unix ライクな OS が身の回りに増えてきましたが、これらを使えるだけでなく、本当の意味で理解するためにも Unix コマンドは重要な要素の一つです。本書では一般的な Unix コマンドのプログラムソースが解説されており、実践的かつ洗練された手法を学ぶことができます。プログラムの技能向上のためにも一度は読んでみて下さい。

The Missing Piece / Shel Siverstein

制御情報システム工学科 准教授 寺田 晋也



以前のブックハンティングで私が購入しました。Pieceを探しに行く絵本ですが、クライマックスは探した後にあります。単純な線や文字と余白で構成されており、読んでいて心が軽くなります。小学校低学年の児童より中学生以上におすすめする本ですが、英語を見ることにも疲れる人は、日本語訳『ぼくを探しに／倉橋由美子訳』があります。原作と一緒に見比べると直訳ではない訳し方があることを知ることも良いです。また、Amazonにたくさんのレビューが書かれています。自分の読んだ印象と比べることもおもしろいですし、アメリカのAmazonのレビューを読んでも、日本人とは違った考え方に触れることができます。

平成25年度 熊本県青少年読書感想文コンクール最優秀賞受賞作品

『ジョン万次郎』を読んで

情報通信エレクトロニクス工学科3年

工 貴大

この本を読んで、最近の生活の中で私自身が忘れかけている「好奇心」だったり「挑戦」することの大切さを改めて万次郎が教えてくれたように思う。

この本は現在、ジョン万次郎と呼ばれている幕末から明治にかけて活躍した「中濱萬次郎」の青年時代について実話を交えながら描かれている。この本における万次郎はとても好奇心旺盛ですぐに周りの人に質問をするような性格である。しかし、何でも聞いてばかりというわけではなく、自分で考えようとする場面も多く見られる。また、捕鯨船での仕事にも参加してみるなど、新しいことに対して臆することなく突き進んでいけるような人物に映った。

たとえばこんな場面がある。「鳥島」に漂着していた万次郎たち漁師がアメリカの捕鯨船に助けられ、とある島でおろしてもらった時である。この時、万次郎はすでに頭の良さや勤勉さを買われ、アメリカ人の船乗りたちと捕鯨を行っていた。そしてその島で万次郎は船長のホイットフィールドに「養子にならないか?」と提案を受けている。このような場面において、普通は他の漁師たちのようにお金をもらって島で安定した生活を送ろうと考えるであろう。しかし万次郎は違った。船長の申し出を受け入れて、アメリカで暮らすことにしたのだ。このような新しいことへの「挑戦」にはとても勇気がいるが、万次郎はきつとこれをチャンスととらえたのであろう。「チャンスがあるならチャレンジしてみたほうがいい」と私は先日ある先生から言われた。とある海外での英語プログラムに参加しようかしまいか迷っていることを先生に伝えた際の言葉である。それまで私は「英語が話せなかったらどうしよう」だとか「外国の人とうまくやれるだろうか」などと消極的になっていたように思う。その時にこの言葉を言われて私ははっとした。たしかにこのプログラムで体験できるであろうことには、考えていたような失敗やうまくいかないことがあるかもしれない。だが逆に言えば、上手くいくこと、いかないことをひっくるめたすべてのものを経験することのできる「チャンス」でもある。きつとこのプログラムは自分の糧になる

だろうと思い、先生の一言で私はそのプログラムへの参加を決意した。

私は今回、この本を読み、この言葉を思い出した。万次郎は突然現れたチャンスを逃すことなくチャレンジしたのだ。これにより万次郎はのちの成功を手に入れた。最近の私には、このような「挑戦」だとか「好奇心」などが今一つかけているように思う。高専で三年生になり、三年間やってきた高校野球を引退した今、受験勉強などで忙しい普通高校生と比べてみると、毎日をただ漫然と過ごしているように思える時が時々ある。入学当初あった新しいことに対しての「好奇心」や色々なことに「挑戦」する楽しさなど、今は薄れているのではないかと思えて仕方ない。この「ジョン万次郎」では様々なものに興味を持ってどんどん挑戦しようとする万次郎の姿がとても印象的だった。自分も万次郎のように意欲的に挑戦しなければと思わせてくれた。自分がやりたいことにもっとどん欲に取り組んでいきたいと改めて思った。

日本で漁師をしている時や捕鯨船に保護された際、初めて見るものに万次郎はとても興味を示して、それが何なのかを知ろうとした。彼の「好奇心」による学びへの意欲や新しいことをどんどん吸収しようという意識が彼を向上させていった。私も万次郎のような態度で学んでいけばとこの本を読んで強く思った。毎日授業で習うことは新しいことばかりである。また、校内の掲示物等を見るとたくさんの活動の参加募集が見られる。改めて自分自身の身の周りを眺めてみると、毎日新しいことや挑戦のチャンスがそこら中に散らばっている。毎日をただ過ごしてはもったいない。日々目の前にあらわれる新しいこと、今まで知らなかったことはきつと自分の将来への糧になる。挑戦するチャンスを生かせば、様々な体験を通して、もっと自分の世界を広げることができる。今私たちが置かれている状態は捕鯨船に乗り込んだ万次郎のそれと全く一緒であるように思えて仕方がない。万次郎のようにチャンスをものにするか、他の漁師のように安定を求めて自分の成長を抑えるのか。それは日々の生活にかかっている。

私も万次郎のように日々興味を持って過ごし、いつか自分の望むような人間になれるように努力しよう。そう思わせてくれる作品だった。

平成25年度 校内読書感想文コンクール入選者

【優秀作】

- 1年1組 納富崇彰・・・「あばやん」に学ぶ
- 1年3組 高瀬綺夏・・・「命の儚さ」
- 2年3組 木村遙・・・自分を生かす生き方
(「まりしてん閻千代姫」を読んで)
- H13年 片岡千知・・・プライドという弱さ
(「山月記」を読んで)
- TE3年 工貴大・・・「ジョン万次郎」を読んで

【佳作】

- 1年1組 井美良野・・・「平和への夢」を読んで
- 1年1組 欽田雅輝・・・「温かいスープ」を読んで
- 1年1組 野中南那・・・「学校のセンセイ」を読んで
- 1年2組 高崎あずさ・・・「いのちの授業」を読んで
- 1年2組 丸木寧々・・・「桐島、部活やめるってよ」を読んで
- 1年3組 尾田航洋・・・「NASAより宇宙に近い町工場」を読んで
- 2年1組 面高雅・・・「100回泣くこと」を読んで
- 2年2組 木原舜一・・・「羅生門」を読んで
- 2年2組 西村溪太・・・「ウォーリアーズ」を読んで

図書委員「私のお勧め図書」

『アルジャーノンに花束を』／ダニエル・キイス



電子工学科5年 山田理園

頭が良ければ幸せか？この本は主人公、チャーリー・ゴードンによる拙い平仮名だらけの報告書から始まります。人より知能の低いチャーリーはある時、知的能力を向上させるための脳手術を受けます。同じ手術を受けたネズミのアルジャーノンとチャーリーはどんどん知識を吸収していくが、急速な知能の発達によりいくつもの壁にぶつかるチャーリー。過去や孤独などに苦悩する様子をチャーリー視点の経過報告により覗いていきます。知能の変化と同様に変化する経過報告の文章にも注目してほしいです。そして最後にチャーリーとアルジャーノンに訪れる結末とは。頭が良ければ幸せか？そんな単純な疑問を投げかけているだけではない作品です。

『宇宙エレベーター 宇宙旅行を可能にする新技術』／石川憲二

制御情報システム工学科4年 中尾明寛

SF作品に登場する宇宙エレベーター。SF好きの人なら一度は聞いたことがあると思います。名前の通り地上と宇宙を繋ぐエレベーターのことです。作品によって形、大きさは様々です。では一体、どんな形で、どのくらいの大きさで、どんな方法で動かすのが一番「現実的」なのでしょう。地上から宇宙に突き出した先端まで一体何キロメートル？どんな素材を使って、どんな形にすればいい？地上から宇宙までどのくらいの時間で行けるようになる？エレベーターの上からはどんな景色が見られる？そして、本当に実現できる？こんな疑問に分かりやすく、簡単に答えてくれる本です。読めばSFをもっと楽しめるようになる、そんな本です。



『植物図鑑』／有川浩



通信エレクトロニクス工学科4年 清田奈那

主人公さやかが夜帰宅すると、ある男の人が入口の前に行き倒れていた。その男の名前は、樹と言う。樹がさやかに「拾ってくれませんか。」と犬に例えてお願いし、面白がったさやかは無一文の樹に、家事全般をしてもらう条件で同居を許可。樹は、バイトと家事全般をしながら、同居を始める。春になると、野草を採集し、料理を作った。回数を重ねる毎に、野草とそれを用いた料理に興味を持ち始めたさやかも、一緒についていくようになる。ところが、ある日樹が家を出て行った。そこで、さやかは樹に対する淡い心を持っていることに気付く…。この本は、季節とともに移り変わる草花と、さやかの変化していく心が描かれています。ぜひ、手に取ってみませんか？

『公園で逢いましょう。』／三羽省吾



通信エレクトロニクス工学科3年 相良拓海

物語の舞台はとある市営アパートの間に設けられた公園。通称「ひょうたん公園」でいつものように開かれるいつものママさんたちの井戸端会議。当たり前だが、どのママさんにもそれぞれ歩んできた人生があり、それは人それぞれ。平坦な人生もあれば波乱万丈な人生もある。仕切り役のママ、恐ろしく地味なママ、ブランド品に身を包む派手ママ、若くして子育てをするママ、そしてそれを見守るママ。ひとりひとりの過去を回想で振り返りながら、物語はまたいつもの公園に収束していく。読んでいくうちに不思議な現実味を感じさせる一冊。

『数学ガール』／結城浩

2年3組 上野拓武

この数学ガールは、数学好きで高2の主人公「僕」と同級生の「ミルカ」、一つ年下の後輩「テトラ」の男子高校生一人、女子高校生二人が数学の問題を解きながら物語を繰り広げる。3人の登場人物が自分で興味を持った問題や、先生に特別にあたえられた数学の問題などを解いていく。

内容は大半が数学の問題で占められているが、一般的な数学書とは違い、会話するように解いていく。よってただ単に数式や解法が羅列してある物より読みやすくわかりやすい。物語としても、普通の高校生の日常のような風景が描かれている。数学を重点的に見るもよし。物語を重点的に見るもよしだと思う。数学の本としても、高校生の物語としても面白い本だ。もっと多くの人にこのシリーズを読んで欲しいと思う。



『王様ゲーム』／金沢伸明

1年1組 山本優貴



この小説は、私が中学校の頃に読んだ小説です。当時は6巻までだったのですが、今は8巻まで出ており私がオススメする小説であり、今最も読みたい小説でもあります。

あらすじ「金沢伸明はとある都道府県の高校生。その金沢伸明のクラスメイト全員にある日の0時0分に突如王様を名乗った人物から命令内容が書かれたメールが送られてきます。命令の猶予は24時間、命令に従わなかったら「罰」として違反者に「死」が。金沢伸明は無事に生き残ることができるのであろうか。」

この小説の特徴は、従わずに「罰」を受けて死んでいくクラスメイトから人間関係の生々しさ、伸明の彼女、本多智恵美、親友、橋本直也と伸明の友情、愛情をリアルに表現されており、読み始めたら引き摺り込まれるように読んでしまうでしょう。

図書館統計（平成25年4月～12月）

（平成25年12月25日現在）

入館者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	3,750	4,095	6,540	5,622	2,487	2,885	3,149	6,009	2,504	37,041

蔵書数	和書	洋書	合計
	71,752	3,802	75,554

日本十進分類法 (NDC)	0総記	1哲学	2歴史	3社会科学	4自然科学	5技術、工業	6産業	7芸術、美術	8言語	9文学	その他	合計
分野別貸出冊数	540	80	39	272	441	821	63	179	1,850	1,343	9	5,637

月別貸出冊数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	696	738	576	710	821	272	603	593	628	5,637

開館時間

曜日	対象期間	時間
平日	4月～9月	8:30～20:00
	10月～3月	8:30～19:00
	春季・夏季・冬季休業期間中	8:30～17:00
土曜	4月～3月 (春季・夏季・冬季休業期間中は閉館)	10:00～12:00, 13:00～16:00
日曜・祝日	終日閉館	

貸出期間と貸出冊数

貸出の種類	拝受者	貸出期間	貸出冊数	備考
一般貸出	教職員	2週間	3冊以内	
	学生			
	一般			
長期貸出	教職員	2ヶ月	5冊以内	教育及び研究に必要な図書館資料に限る
	学生	春季・夏季・冬季休業期間	5冊以内	
	卒業研究用 特別研究用	2ヶ月	5冊以内	卒業研究及び特別研究に必要な図書館資料に限る

～編集後記～

従来の『くぬぎの森』より頁数を減らして学生全員に配布出来るようにしました。新図書館長の挨拶と、H25年度より始めた取り組み、教員や学生からの推薦本の紹介など、図書館の更なる活性化が期待できる内容となっています。ご執筆頂いた方々にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

人の書いた文章にはその人の世界観が表れるものです。『くぬぎの森』を通して、普段交わす会話とはひと味違ったその人の考えや人柄の良さを知って頂けると嬉しく思います。発信できる図書館、温もりを感じられる図書館を目指して、『くぬぎの森』からも新しい情報をお届けできたらと思います。

(2014年1月16日 編集委員 松尾かな子)